

川崎重工業株式会社

NO.2020104

2021年2月4日

2020年度第3四半期 連結決算 概要

連結決算			
	前第3四半期 連結累計期間 (2019年度 第3四半期)	当第3四半期 連結累計期間 (2020年度 第3四半期)	(参考) 前連結会計年度 (2019年度)
受注高	10,226	9,140	15,135
売上高	11,354	10,324	16,413
営業利益又は営業損失(△)	309	△ 37	620
経常利益又は経常損失(△)	153	△ 0	404
税金等調整前 四半期(当期)純利益	142	8	393
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 四半期純損失(△)	47	△ 139	186
1株当たり 四半期(当期)純利益又は 四半期純損失(△)	28.50 円	△ 83.62 円	111.72 円
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 2,884	△ 1,397	△ 154
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 462	△ 224	△ 694
財務活動による キャッシュ・フロー	3,358	1,926	1,158

(単位:億円)

お問い合わせ先: コーポレートコミュニケーション部
 [東京] Tel:03-3435-2130 [神戸] Tel:078-371-9531



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月4日
東・名

上場会社名 川崎重工業株式会社 上場取引所
 コード番号 7012 URL <https://www.khi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 橋本 康彦
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 星野 達生 (TEL) (03)3435-2130
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・マスコミ向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	1,032,484	△9.1	△3,735	—	△56	—	△13,969	—
2020年3月期第3四半期	1,135,444	3.7	30,983	△15.9	15,379	△22.6	4,762	△58.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △13,672百万円(—%) 2020年3月期第3四半期 △82百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△83.62	—
2020年3月期第3四半期	28.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	2,041,646	456,632	21.6
2020年3月期	1,957,845	471,562	23.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 440,031百万円 2020年3月期 455,627百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	35.00	—	0.00	35.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めています。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,500,000	△8.6	△10,000	—	△15,000	—	△25,000	—	△149.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2021年3月期3Q	167,080,532株	2020年3月期	167,080,532株
2021年3月期3Q	37,726株	2020年3月期	36,587株
2021年3月期3Q	167,043,437株	2020年3月期3Q	167,044,779株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記載等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、その達成を当社としては約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想と異なる結果となることがあります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手について)

当社は、2021年2月4日(木)に、カンファレンス・コール(電話会議)による機関投資家・アナリスト・マスコミ向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する四半期決算説明資料につきましては、決算発表と同時にT D n e t及び当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(四半期連結貸借対照表関係)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報)	11
3. 補足情報	12
(1) (要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(2) 2021年3月期 連結業績見直し補足資料	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

新型コロナウイルスの感染収束の見通しは依然として不透明であり、世界経済への影響の長期化が懸念されます。このような中、リモートワークの広がりやアウトドア志向の強まりを受け、新しい働き方や生活様式に関する製品やサービスの需要の増大、更には脱炭素社会に対する取組みへの社会の関心が高まるなど、厳しい世界経済の状況下においても明るい兆しが見られます。

なお、米国では、政権交代により国際協調路線への復帰が期待されますが、米中関係の今後の動向には引き続き注視が必要です。

このような経営環境の中で、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結受注高は、エネルギー・環境プラント事業、車両事業を中心に減少となりました。連結売上高については、精密機械・ロボット事業などが増収となる一方で、航空宇宙システム事業などが減収となったことにより、全体では前年同期比で減収となりました。利益面に関しては、営業損益はモーターサイクル&エンジン事業の改善はあったものの、航空宇宙システム事業での悪化などにより、減益となりました。経常損益は、為替差損益の好転や民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金戻入益の計上はあったものの、営業損益の減益により減益となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、固定資産売却益の特別利益への計上はあったものの、経常損益の減益に加え、固定資産の減損損失の特別損失への計上や繰延税金資産の一部取崩しを行ったことにより、減益となりました。

この結果、当社グループの連結受注高は前年同期比1,085億円減少の9,140億円、連結売上高は前年同期比1,029億円減収の1兆324億円、営業損益は前年同期比347億円悪化して37億円の損失、経常損益は前年同期比154億円悪化して0億円の損失、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期比187億円悪化して139億円の損失となりました。

当第3四半期連結累計期間の連結セグメント別業績の概要は以下のとおりです。

(単位：億円)

報告セグメント	前第3四半期 連結累計期間 (2019年12月期)		当第3四半期 連結累計期間 (2020年12月期)		増 減		(参考)受注高			
	売上高	営業 損益	売上高	営業 損益	売上高	営業 損益	前第3 四半期 連結 累計期間	当第3 四半期 連結 累計期間	増 減	
航空宇宙システム	3,714	205	2,779	△192	△934	△397	2,451	2,247	△203	
エネルギー・環境 プラント	1,623	130	1,599	86	△24	△43	1,843	1,546	△297	
精密機械・ロボッ ト	1,470	52	1,542	81	71	29	1,571	1,702	131	
船舶海洋	530	△7	557	△30	27	△22	316	327	10	
車両	974	△31	1,015	△13	40	18	912	492	△420	
モーターサイクル &エンジン (注) 2	2,301	△45	2,255	18	△46	64	2,301	2,255	△46	
その他	739	20	575	5	△163	△15	828	569	△259	
調整額	—	△13	—	7	—	20	—	—	—	
合 計	11,354	309	10,324	△37	△1,029	△347	10,226	9,140	△1,085	

(注) 1 売上高は、外部顧客に対する売上高です。

2 モーターサイクル&エンジン事業については、主として見込み生産を行っていることから、受注高について売上高と同額として表示しています。

航空宇宙システム事業

航空宇宙システム事業を取り巻く経営環境は、防衛省向けについては厳しい防衛予算の中で概ね安定した需要が存在しています。民間航空機については、新型コロナウイルスの感染拡大により世界の旅客需要が低迷しており、機体・エンジンともに需要が低下しています。

このような経営環境の中で、連結受注高は、防衛省向けは増加したものの、民間航空機向け分担製造品や民間航空エンジン分担製造品が減少したことにより、前年同期に比べ203億円減少の2,247億円となりました。

連結売上高は、防衛省向けや民間航空機向け分担製造品、民間航空エンジン分担製造品が減少したことにより、前年同期に比べ934億円減収の2,779億円となりました。

営業損益は、減収などにより、前年同期に比べ397億円悪化して192億円の営業損失となりました。

エネルギー・環境プラント事業

エネルギー・環境プラント事業を取り巻く経営環境は、国内ではごみ焼却プラント等において老朽化設備の更新需要が継続しているほか、中長期的には国内外の分散型電源需要、及び新興国におけるエネルギーインフラ整備需要が根強い状況にあります。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞や資源価格の不安定化により、顧客の短期的な設備投資判断が見直されるなど、不透明な状況が継続しています。

このような経営環境の中で、連結受注高は、国内向けごみ処理施設の大規模改修工事やエネルギー事業での大口案件の受注があった前年同期に比べ297億円減少の1,546億円となりました。

連結売上高は、国内向けごみ処理施設案件の工事量増加や国内向けガスタービンコンバインドサイクル発電プラントの売上増加はあったものの、海外向け化学プラントの売上があった前年同期に比べ24億円減収の1,599億円となりました。

営業利益は、減収に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響による操業差損の発生などにより、前年同期に比べ43億円減益の86億円となりました。

精密機械・ロボット事業

精密機械・ロボット事業を取り巻く経営環境は、精密機械分野では、中国建設機械市場が新型コロナウイルス感染拡大の影響からいち早く回復しており、当社の中国市場向け販売も、昨年度を上回る状況にあります。また、中国以外の地域における建設機械市場は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による市場の停滞により、需要が大幅に減少していましたが、足元では回復基調が鮮明となってきています。ロボット分野では、汎用ロボットは、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け案件の期ずれがあるものの、回復が早かった中国一般産機向けに加え、車体組立向けも堅調に推移しています。半導体向けロボットについても、半導体製造装置メーカーの設備投資の増加により好調に推移しており、中長期的にも需要は着実に拡大していくことが見込まれます。

このような経営環境の中で、連結受注高は、建設機械市場向け油圧機器や半導体向け及び車体組立向けロボットの増加により、前年同期に比べ131億円増加の1,702億円となりました。

連結売上高は、建設機械市場向け油圧機器や半導体向け及び車体組立向けロボットの増加により、前年同期に比べ71億円増収の1,542億円となりました。

営業利益は、増収により、前年同期に比べ29億円増益の81億円となりました。

船舶海洋事業

船舶海洋事業を取り巻く経営環境は、環境規制強化に伴うガス燃料推進船需要が顕在化する一方で、新型コロナウイルスの感染拡大により新規商談案件が限られている上、韓国・中国造船所の低価格受注によって市場回復が遅れ、依然として厳しい状況にあります。

このような経営環境の中で、連結受注高は、前年同期に比べ10億円増加の327億円となりました。

連結売上高は、新造船の工事量は前年同期並みだったものの、修繕船の売上増加などにより、前年同期に比べ27億円増収の557億円となりました。

営業損益は、増収があったものの、操業差損の発生などにより、前年同期に比べ22億円悪化して30億円の営業損失となりました。

車両事業

車両事業を取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により国内では鉄道関連投資計画の見直し、海外では工程の遅れや入札の延期・中止等が現実となりつつありますが、中長期的には、人口集中による大都市の混雑緩和や環境対策のための都市交通整備、アジア諸国の経済発展に伴う鉄道インフラニーズなど、今後も世界的に比較的安定した成長が見込まれます。

このような経営環境の中で、連結受注高は、国内私鉄・公営鉄道向けの大口案件の受注があった前年同期に比べ420億円減少の492億円となりました。

連結売上高は、米国向け車両が減少したものの、国内向け車両が増加したことなどにより、前年同期に比べ40億円増収の1,015億円となりました。

営業損益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響などによる海外案件の採算悪化はあったものの、増収により、前年同期に比べ18億円改善して13億円の営業損失となりました。

モーターサイクル&エンジン事業

モーターサイクル&エンジン事業を取り巻く経営環境は、主要市場である欧米や東南アジアで新型コロナウイルスの感染が拡大し市場が大きな影響を受けました。足元の小売販売は、米国市場はオフロードモデルに対する需要の高まり等により前年度を上回る水準となり、また欧州市場も前年度並みの水準まで回復しています。一方、新興国市場は依然として低迷し、前年度を下回る水準が続いています。

このような経営環境の中で、連結売上高は、北米向け四輪車の増加はあったものの、新興国向け二輪車が大きく減少したことや、前年同期に比べ為替レートが円高で推移したことなどにより、前年同期に比べ46億円減収の2,255億円となりました。

営業損益は、減収があったものの、固定費の削減などにより、前年同期に比べ64億円改善して18億円の営業利益となりました。

その他事業

当社グループはグループビジョン2030において、「安全安心リモート社会」「近未来モビリティ」「エネルギー・環境ソリューション」の3点に独自の視点でフロンティアを切り拓いていくこととしており、手術支援ロボットの開発や、ロボットによる自動PCR検査サービス事業、水素関連の開発など、新事業への取り組みを着実に進めています。

連結売上高は、前年同期に比べ163億円減収の575億円となりました。

営業利益は、前年同期に比べ15億円減益の5億円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

流動資産は、たな卸資産の増加などにより前期末比1,049億円増加し、1兆3,636億円となりました。

固定資産は、有形固定資産の償却による減少などにより前期末比211億円減少し、6,779億円となりました。

この結果、総資産は前期末比838億円増加の2兆416億円となりました。

②負債

有利子負債は、前期末比1,931億円増加の7,606億円となりました。

負債全体では、有利子負債の増加などにより前期末比987億円増加の1兆5,850億円となりました。

③純資産

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上などにより、前期末比149億円減少の4,566億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の連結業績につきましては、連結売上高は前回(10月29日)公表値を据え置きます。

連結営業利益、連結経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益はともに前回から改善し、連結営業利益100億円の損失、連結経常利益150億円の損失、親会社株主に帰属する当期純利益250億円の損失となる見通しです。

また、連結受注高は1兆3,600億円、ROICは△1.7%、ROEは△5.5%となる見通しです。

本業績予想における為替レートは、1ドル=104円、1ユーロ=123円を前提としています。
なお、詳細につきましては、本日公表の「2021年3月期通期連結業績予想の修正について」をご参照下さい。

(業績等の予想に関する注意事項)

上記の業績見通しは、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しにのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	106,108	137,326
受取手形及び売掛金	473,204	477,359
商品及び製品	75,042	66,620
仕掛品	426,256	482,563
原材料及び貯蔵品	130,359	135,067
その他	51,176	68,168
貸倒引当金	△3,367	△3,407
流動資産合計	1,258,781	1,363,698
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	193,931	179,453
その他	288,639	283,811
有形固定資産合計	482,570	463,264
無形固定資産		
	21,358	22,092
投資その他の資産		
その他	196,973	193,966
貸倒引当金	△1,838	△1,375
投資その他の資産合計	195,134	192,590
固定資産合計	699,063	677,947
資産合計	1,957,845	2,041,646
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	261,159	221,257
電子記録債務	110,526	112,685
短期借入金	166,188	183,605
未払法人税等	6,116	5,804
販売促進引当金	12,174	6,176
賞与引当金	22,032	9,199
保証工事引当金	14,454	11,941
受注工事損失引当金	11,464	12,245
前受金	148,610	135,126
その他	194,998	303,687
流動負債合計	947,726	1,001,729
固定負債		
社債	160,000	190,000
長期借入金	188,859	196,258
退職給付に係る負債	129,846	136,253
民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金	※1 15,689	※1 9,656
その他	44,161	51,116
固定負債合計	538,556	583,284
負債合計	1,486,283	1,585,013

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	104,484	104,484
資本剰余金	54,542	54,542
利益剰余金	326,626	311,888
自己株式	△133	△134
株主資本合計	485,520	470,780
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,636	1,378
繰延ヘッジ損益	△272	403
為替換算調整勘定	△11,311	△13,777
退職給付に係る調整累計額	△19,946	△18,752
その他の包括利益累計額合計	△29,892	△30,748
非支配株主持分	15,934	16,600
純資産合計	471,562	456,632
負債純資産合計	1,957,845	2,041,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	1,135,444	1,032,484
売上原価	954,085	899,606
売上総利益	181,359	132,877
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	41,357	40,709
研究開発費	36,371	29,751
その他	72,645	66,152
販売費及び一般管理費合計	150,375	136,612
営業利益又は営業損失(△)	30,983	△3,735
営業外収益		
受取利息	530	396
受取配当金	252	797
持分法による投資利益	867	1,454
為替差益	—	1,936
民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金 戻入益	—	※1 3,005
その他	2,157	3,096
営業外収益合計	3,807	10,687
営業外費用		
支払利息	2,787	2,918
為替差損	4,794	—
民間航空エンジンの運航上の問題に係る負担金	※1 7,640	—
その他	4,189	4,090
営業外費用合計	19,411	7,008
経常利益又は経常損失(△)	15,379	△56
特別利益		
固定資産売却益	※2 1,277	※2 3,236
関係会社株式売却益	—	※3 1,581
特別利益合計	1,277	4,817
特別損失		
事業撤退損	※4 2,383	—
減損損失	—	※5 3,948
特別損失合計	2,383	3,948
税金等調整前四半期純利益	14,273	811
法人税等	8,416	13,580
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,856	△12,768
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,094	1,200
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失(△)	4,762	△13,969

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,856	△12,768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△167
繰延ヘッジ損益	△143	643
為替換算調整勘定	△2,903	△2,037
退職給付に係る調整額	1,352	1,199
持分法適用会社に対する持分相当額	△4,246	△541
その他の包括利益合計	△5,939	△904
四半期包括利益	△82	△13,672
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△678	△14,826
非支配株主に係る四半期包括利益	595	1,153

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。また、見積実効税率を使用できない場合は、税引前四半期純利益に一時差異に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しています。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しています。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金

当社がリスク&レベニューシェアリングパートナー（RRSP）方式で参画しているロールス・ロイス社製ボーイング787用Trent1000エンジンプログラムは運航上重要な問題が発生しており、現在、ロールス・ロイス社が状況改善に向けて対応を進めています。これら運航上の問題に係る費用に関して、当社がプログラム参画メンバーとして負担すると見込まれる金額を、引当金へ計上しています。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金戻入益・民間航空エンジンの運航上の問題に係る負担金

当社がリスク&レベニューシェアリングパートナー（RRSP）方式で参画しているロールス・ロイス社製ボーイング787用Trent1000エンジンプログラムは運航上重要な問題が発生しており、現在、ロールス・ロイス社が状況改善に向けて対応を進めています。これら運航上の問題に係る費用に関して、当社がプログラム参画メンバーとして負担すると見込まれる金額の増加額を営業外費用へ、減少額を営業外収益へ計上しています。

※2 固定資産売却益

前第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

寮・社宅の跡地の売却によるものです。

当第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

当社及び当社子会社の寮・社宅売却によるものです。

※3 関係会社株式売却益

当社子会社の関係会社株式売却によるものです。

※4 事業撤退損

当社、エネルギー・環境プラントカンパニーでの一部事業の撤退に伴う損失です。

※5 減損損失

当社、船舶海洋カンパニーの坂出工場に係る資産について、現在の市場環境を前提に収益性が低下したことに伴うものです。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	航空宇宙 システム	エネルギ ー・ 環境プラ ント	精密機 械・ロボ ット	船舶海洋	車両	モーター サイクル &エンジ ン	その他 事業	報告 セグメント 計	調整額 (注1)	連結
売上高										
(1) 外部顧客への 売上高	371,446	162,317	147,080	53,016	97,477	230,171	73,934	1,135,444	—	1,135,444
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	6,913	23,379	11,422	6,514	12	497	27,782	76,522	△76,522	—
計	378,360	185,697	158,503	59,531	97,489	230,668	101,716	1,211,967	△76,522	1,135,444
セグメント利益又は 損失(△)	20,517	13,027	5,216	△788	△3,147	△4,517	2,055	32,364	△1,380	30,983

(注) 1 調整額の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

利益	金額
セグメント間取引消去	105
全社費用(注)	△1,486
合計	△1,380

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	航空宇宙システム	エネルギー・環境プラント	精密機械・ロボット	船舶海洋	車両	モーターサイクル&エンジン	その他事業	報告セグメント計	調整額(注1)	連結
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	277,994	159,912	154,244	55,756	101,513	225,511	57,550	1,032,484	—	1,032,484
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	4,351	14,734	9,576	2,460	5	483	26,939	58,552	△58,552	—
計	282,346	174,646	163,820	58,216	101,519	225,995	84,490	1,091,036	△58,552	1,032,484
セグメント利益又は損失(△)	△19,257	8,695	8,128	△3,051	△1,341	1,884	500	△4,443	707	△3,735

(注) 1 調整額の内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

利益	金額
セグメント間取引消去	△5
全社費用(注)	712
合計	707

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

船舶海洋セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しています。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は、3,948百万円です。

3. 補足情報

(1) (要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△288,421	△139,750
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,216	△22,400
財務活動によるキャッシュ・フロー	335,815	192,645
現金及び現金同等物の四半期末残高	70,914	133,085

(2) 2021年3月期 連結業績見通し補足資料

①売上損益

(単位：億円)

報告セグメント	2021年3月期見通し						2020年3月期実績	
	今回		10月29日見通し		増減			
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空宇宙システム	4,000	△250	4,000	△250	—	—	5,325	427
エネルギー・環境プラント	2,400	130	2,400	85	—	45	2,429	175
精密機械・ロボット	2,300	115	2,200	100	100	15	2,173	122
船舶海洋	800	△35	800	△30	—	△5	716	△6
車両	1,400	△45	1,500	△20	△100	△25	1,365	△38
モーターサイクル&エンジン	3,300	50	3,200	△50	100	100	3,377	△19
その他	800	10	900	10	△100	—	1,024	12
調整額		△75		△45		△30		△53
合計	15,000	△100	15,000	△200	—	100	16,413	620

②受注高

(単位：億円)

報告セグメント	2021年3月期見通し			2020年3月期実績
	今回	10月29日見通し	増減	
航空宇宙システム	3,300	3,100	200	4,149
エネルギー・環境プラント	2,200	2,300	△100	2,523
精密機械・ロボット	2,300	2,200	100	2,188
船舶海洋	1,000	1,000	—	562
車両	700	700	—	1,257
モーターサイクル&エンジン	3,300	3,200	100	3,377
その他	800	900	△100	1,075
合計	13,600	13,400	200	15,135

(注) モーターサイクル&エンジン事業については、主として見込み生産を行っていることから、受注高について売上高と同額として表示しています。

③ROIC(税引前)

(単位：%)

報告セグメント	2021年3月期見通し			2020年3月期実績
	今回	10月29日見通し	増減	
航空宇宙システム	△5.2	△4.8	△0.4	8.0
エネルギー・環境プラント	10.4	8.6	1.8	10.4
精密機械・ロボット	10.1	7.6	2.5	8.8
船舶海洋	△7.0	△6.9	△0.1	1.4
車両	△6.4	△3.2	△3.2	△7.2
モーターサイクル&エンジン	4.4	△5.3	9.7	△2.6
全社	△1.7	△2.2	0.5	4.2

(注) 1 2021年3月期見通し前提為替レート：104円/USD、123円/EUR

2 ROIC = EBIT(税引前利益 + 支払利息) ÷ 投下資本(有利子負債 + 自己資本)